

クリントン政権で国防次官補として活躍したJ・ナイは今後の国力は武力などハードパワーではなく、ソフトパワーになると提唱し、その本質は魅力、すなわち必要なヒト、モノ、カネ、チエを自国に誘引する能力が安全保障の中核になると説明している。そこで年初にあたり、様々な調査で日本のソフトパワーがどのように評価されているかを以下に紹介する。

企業の世間での評判を調査している「レピュテーション・インスティテュート」がGDP上位五カ国について、生活様式、安全水準、世界貢献など七項目を基準に各国の評判を発表しているが、日本は八位と評価されている。参考までに上位はスウェーデン、フィンランド、ノルウェイなど北欧諸国が独占している。

「インスティテュート・フオア・エコノミクス・アンド・ピース」は一六三カ国について、安全、軍事、紛争の三項目で国家の平和状態を評価しており、日本は九位である。上位はアイスランド、ニュージーランド、オーストリア、ポルトガルなどヨーロッパ諸国が中心で、アジアではシンガポールが八位に登場する。

「USニューズ」が世界の八〇カ国を対象に、市民権、文化力、開放性など六項目で最良国家の順位を発表しているが、日本は五位に評価され、上位はスイス、カナダ、ドイツ、イギリスである。ここまでは日本が魅力ある国家と評価されている調査を紹介したが、低位の評価も当然存在する。

「レガタム・インスティテュート」による「繁栄指数」は一四六カ国を対象に、企業環境、教育制度、安全水準など九項目で評価しているが、日本は三位である。安全水準は二位、保健衛生は三位であるが、社会資本が九九位、自然環境が三九位などの影響である。上位はノルウェイ、ニュージーランド、フィンランドである。

男女格差も日本の弱点で、「世界経済フォーラム」の発表する一四九カ国を対象にした「男女格差指数」では一〇位である。よく話題にされるように、国会議員の女性比率が一九三カ国のうち一五八位などが影響している。これもアイスランド、ノルウェイ、スウェーデン、フィンランドなど北欧諸国が上位を独占している。

幸福は個人の気持次第で、客観評価は困難、かつ意味がないかもしれないが、いくつも順位が発表されている。国際連合が発表する一五六カ国を対象にした「世界幸福順位」では日本は五四位、経済学者が計算した「人生満足指数」では一七八カ国の九〇位、OECD加盟三八カ国について計算した「生活満足指標」では二九位である。

これら以外にも世界各国の順位を評価する指標は数多く発表されている。ここまで日本が上位の指標と下位の指標をそれぞれ三例紹介したが、わずかな項目で計算した結果は千差万別であり、一喜一憂の必要はない。しかも欧米の価値意識を基準にしているため、北欧諸国が象徴するように欧米の小国が評価される傾向にある。

しかし、ナイが提起した魅力という概念は日本に重要な意味がある。日本は大半の資源を輸入に依存し、外国人労働者や外国人観光客を必要としている。これらの確保を左右する条件は外国からの評価である。ある程度は札束も威力を発揮するが、より効果があるのはヒト、モノ、チエを牽引する魅力である。それを向上させることこそ日本の戦略課題である。